

# 【社会・中1・「世界の諸地域（北アメリカ州）」①】

## 育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 資料から北アメリカ州に関する情報を収集し、効果的に調べまとめるとともに、北アメリカ州における地域の諸事象や地域的特色を理解する。
- (思考力、判断力、表現力等) 社会的な事象に対して、複数の立場や意見を基に多面的・多角的に考察したり、議論したりして北アメリカ州の地域的特色や地球的課題を見出し、そのことについて思考・判断したことを自分の言葉で説明することができる。
- (学びに向かう力、人間性等) 北アメリカ州の地理的事象に対して、関心を持って学習に取り組み、持続可能な観点も含め、よりよい社会の実現に向けて主体的に学ぶことができる。

<本時のねらい (1/7) >

アメリカの日常景色の資料を基に疑問や調べたいことを考え、単元の課題を立てる活動を通して多民族・多民族化がアメリカ社会へもたらす影響を追究する意欲をもてるようにする。

## ICT活用のポイント (本時)

ICT端末（情報共有機能）及び大型提示装置（電子黒板）を活用した資料提示及び対話的な活動の充実を図り、社会的な事象に対する生徒一人一人の情報の読み取りや、気づきを促し、協働的に課題発見をして単元の課題を決定できるようにする。

### 【つかむ】

アメリカに対する印象を共有し、本時のめあてをつかむ。

### 【追究する】

資料を基にアメリカの特色や、それに対する疑問を話し合い、単元の課題を決定する。

### 【まとめる】

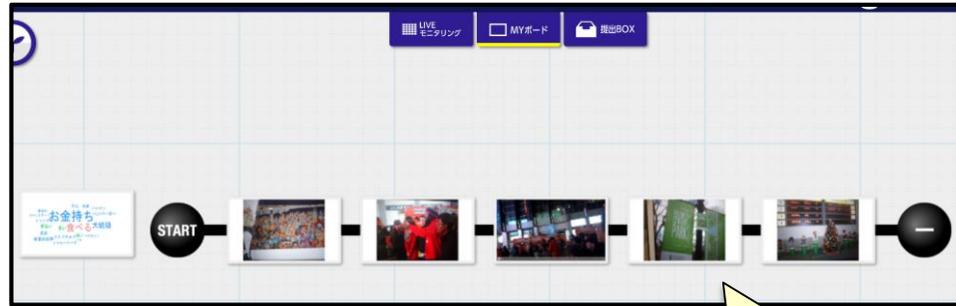
単元の課題を確認し、本時の振り返りをする。

## 事例の概要

- 電子黒板を用いてアメリカに対する事前アンケートの結果を確認後、提示された複数の資料から読み取れるアメリカの特色を話し合い、疑問を基に単元を通して追究する課題を設定することをめあてとしてつかむ。
- 各自のICT端末に送付された複数の資料から情報を読み取り、資料に見られる共通点をグループ（3～4人）で話し合う。
- グループごとに資料から読み取った共通点を基に、「アメリカはどのような国か」を話し合い、整理したことを学級全体で共有する。
- 「他国との交流が盛んで賑わいがある」「多様な人が集まり、一緒に生活する」等の意見から「なぜ型」の課題を各自で考え、合意形成により単元の課題を決定する。
- 「分かったこと」を視点にした振り返りをペアで伝え合い、その後、全体で共有する。（アメリカへの印象を広げ、課題解決への意欲を高める生徒の姿が見られた。）

# 【社会・中1・「世界の諸地域（北アメリカ州）」②】

## 【事例におけるICT活用の場面①】



<生徒のICT端末へ送信した資料>

写真や動画を自ら選択し  
情報を読み取る

導入場面において、電子黒板を用いて学級全体で4つの資料を確認することで、共通点を見出してアメリカの特色を話し合う活動の見通しをもたせることができた。

各自のICT端末に資料送付することで、一人一人が自分の学び方に応じ、読み取る資料を選択して順序を決めたり、資料ごとに読み取りに要する時間を設定したりする生徒の姿が見られた。写真資料は手元の操作でアップやルーズができ、詳細を読み取ることや全体を概観して読み取ることにより有効であった。また、動画資料は繰り返し再生したり、停止して注意深く見たりすることが有効であった。

## 【事例におけるICT活用の場面②】



交流を通して見出した  
アメリカの特色を基に  
一人一人が疑問をもち  
教師へ提出

個別追究の場面において、考えの根拠の問いかけ、学び方のよさの称賛と全体への周知等を意図的に行うことで、個で考えをもつことが活性化した。

グループごとに話し合う場面では、「様々な人種の人々が生活すること」「他国との交流が盛んであること」等、自分の考えの根拠となる資料をICT端末の画面を見せながら伝える生徒の姿が見られた。



<一人一人が考え提出した課題を一覧表示>

グループごとに見出したアメリカの特色についての発表を基に、各自で追究する課題を考えた。そして、合意形成を図りながら単元の課題を設定することができた。

学習支援ソフトの情報共有機能を活用することで、一人一人の考えや思いを共有する上で有効であった。ICT端末で「なぜ型」の課題を入力して提出する方法、ノートに課題を書いてカメラ機能で撮影して提出する方法を生徒に選択させたことも良かった。提出された課題は、各自のICT端末で確認できたり、電子黒板で一覧表示できたりするため、他者の考えを得ながら、自分の考えを明確にもつ生徒の姿が見られた。